

シラカンバを原料とした黒毛和牛向け粗飼料

黒毛和牛の指向性が高く枝肉*重量が増えるシラカンバ粗飼料の商業生産が実現できました

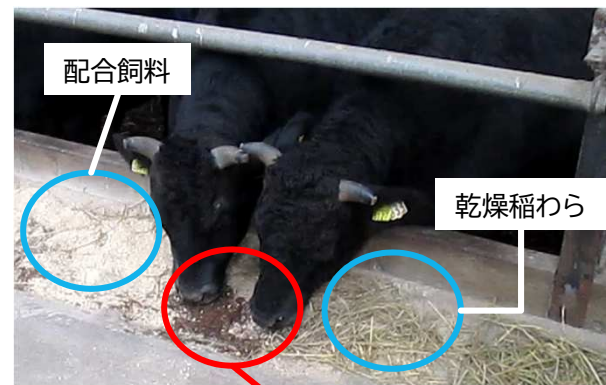
背景

※枝肉:頭、内臓、皮等を除いた肉と骨の塊

- シラカンバを含むカンバ類は本道広葉樹資源の23%を占めており、紙需要が低迷する中、パルプ材以外の活用方法が求められています。
- 近年、黒毛和牛に給餌している輸入粗飼料の価格が不安定であることから、嗜好性が高い国産粗飼料を安定した価格で供給できることが求められています。

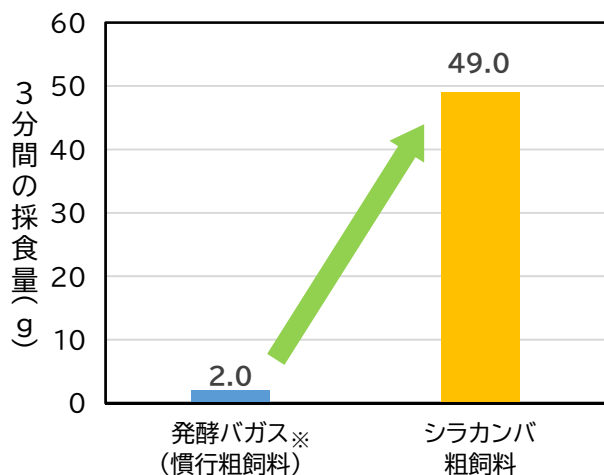
成果

- 輸入粗飼料よりも嗜好性が高く、枝肉重量を増加させるシラカンバ粗飼料を開発しました。

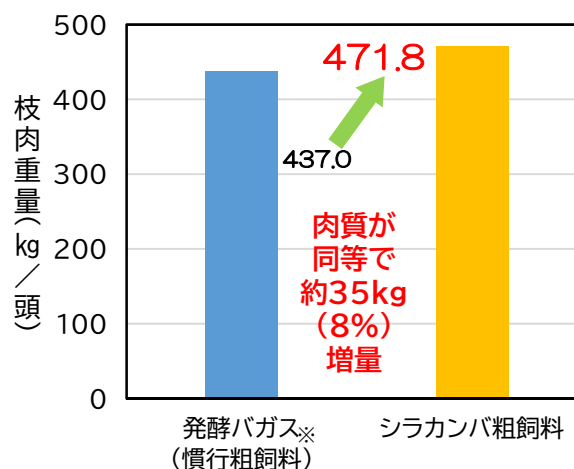


シラカンバ粗飼料
(高温・高圧の水蒸気で処理したシラカンバ)

1 嗜好性が大幅にアップ



2 枝肉重量がアップ



※発酵バガス:サトウキビから砂糖を搾り取った残渣を微生物処理した輸入粗飼料

3 商業規模での生産が始まる



共同研究企業では、生産規模2000t/年の施設が導入されており、これは全道黒毛和牛の約15%に給餌可能な規模です。今後、シラカンバ以外の道産材利用や乳牛への給餌の展開を図ります。

期待される効果

○今後、国産粗飼料としてシラカンバの活用を図り、広葉樹資源の新たな用途展開を推進していきます。

共同研究機関:帯広畜産大学、株式会社エース・クリーン、雪印種苗株式会社
(協力機関:畜産試験場、林産試験場、釧路工業技術センター、北海道オホーツク総合振興局、中野牧場、(株)北海道技術コンサルタント)